特集 とうきょうの計量 No.220

11年度 関ブロ、10月28日に開催 さいたま市で

2011年度の関東甲信越地区計量団体連絡協議会（関ブロ）が、㈳埼玉県計量協会、同計量士部会の担当により、10月28日㈮にさいたま市で開催される。

今年の議題には、以下の2点などが挙がっている。

(1)地方分権改革推進関連の国・地方の役割分担の見直し（第3次見直しが開始されている）の動向、それに伴う計量法の実施に掛かる関係条項の変更や廃止があがっていることへの意見表明

(2)東日本大震災の被災地における復興着手に伴う、当該地域における事業所などの被災計量器の修理、点検などへの対応や行政機関の支援

【日時】2011年10月28日㈮、12時30分受付開始

【会場】パレスホテル大宮＝さいたま市大宮区桜木町1－7－5、電話048－647－3300

【内容】▽13時35分～感謝状贈呈▽13時50分～協議会▽16時20分～記念講演「鉄道の発展と埼玉の歩み－日本鉄道開業から新幹線の将来像まで－」（鉄道博物館松久謙一副館長）▽17時30分～懇親会

【協議会参加費】1万3000円（会議のみ参加は3000円）

計コン資格取得講習会 10月22日に

「計コン資格取得講習会」が、10月22日に開催される。

同講習会は、㈳東京都計量協会（都計協）の2010年度事業として3月に企画されていたが、東日本大震災により中止されていた。このほど準備が整ったため、開催が決まった

【日時】2011年10月22日㈯、9時～17時

【場所】芝弥生会館＝東京都港区海岸1丁目10、電話03－3434－5065

【定員】30名

【受講料】1万円（テキスト代など諸経費を含む）

【問い合わせ先】都計協事務局＝電話03－3434－9591、Eメールtokeikyo01@tokeikyo.or.jp

都計コン見学会 日清オイリオと住友電工 工場へ

日清オイリオ

東京都計量器コンサルタント協会（都計コン、植村実敏会長）は、2011（平成23）年度の第1回見学会を7月13日に実施し、21名が参加した。

今回は、日清オイリオ横浜磯子事業場（神奈川県横浜市磯子区新森町）と、住友電気工業横浜製作所（神奈川県横浜市栄区田谷町）の2工場を見学した。

日清オイリオグループは、国内に4つの生産拠点を有し、なかでも世界最大級の「横浜磯子事業場」は、6万トンクラスの大型貨物船が接岸できる埠頭をもち、原料の荷揚げから搾油・精製までを一貫して行っている。1963年に操業した同事業場は、製油事業を中心にファインケミカル、食品たん白などの各事業分野の生産機能をもち、事業部機能、自動化物流倉庫なども合わせもつ生産拠点としてのリード役を担っている。

住友電気工業横浜製作所は、横浜市の南端に位置し、同社で最も広大な敷地を有している。通信ケーブルの関東地区の拠点として開設され、現在では光ファイバー・ケーブル、光・通信機器等の製造を行うとともに、オプトエレクトロニクスなどの研究開発も行なっている。

住友電工

着接続機、デバイスなど。

当日は、東京都計量検定所を出発し、日清オイリオ横浜磯子事業場へ。会議室で日清オイリオと横浜磯子事業場の概要説明とビデオ上映があり、その後バスで場内を見学した。ちょうどアメリカからの原料を積んだ大型貨物船が接岸していた。

同事業場の敷地面積は23万3000㎡。サイロの貯蔵能力は大豆換算で11万1000tある。家庭で使われる食用油の充填・箱詰め工程を巡り、少人数での工程管理の実施状況を見学した。

住友電気工業横浜製作所では、2班に分かれて、光ファイバの製造現場と多芯光ファイバ・ケーブルの生産現場を見学した。髪の毛ほどの光ファイバが何本も束ねられて、極太の通信ケーブルができあがっていくようすは感動的であった。

部会・団体だより

東京計量士会

◇11年度出前計量教室

学校数16校、会場数23教室、参加数842人で実施予定。

▽8月30日＝田道小（寒暖計の工作）▽9月15日＝関口台町小（商品量目を調べる）▽9月29日＝東大和第二（寒暖計の工作）▽10月20日＝第二暮里（棒はかりの工作）▽11月28日＝富士見小（棒はかりの工作）▽12月8日＝第三砂町小（棒はかりの工作）▽12月15日＝西巣鴨小（寒暖計の工作）▽12月21日＝蓮根小（棒はかりの工作）▽12年1月12日＝曳船小（棒はかりの工作）▽1月20日＝立川第二小（棒はかりの工作）▽1月31日＝長崎小（棒はかりの工作）▽2月2日＝第二延山小（計量単位の話）▽2月7日＝小平第九小（棒はかりの工作）▽2月23日＝恩方第二小（棒はかりの工作）▽3月8日＝第三峡田小（棒はかりの工作）▽12月の工作）

◇11年度第1回計量技術研修会

【日時】9月14日㈬、13時30分～

【場所】東京都計量検定所2階B会議室

【内容】

(1)計量行政情報について（東京都計量検定所小林雄志指導係長）

(2)㈳日本計量振興協会（日計振）「ISO／JISQ1001」2普及活用のための調査研究委員会」の報告について（日計振横尾明幸副会長）

(3)日計振「中小企業向け計量計測基礎研修検討委員会」の報告について（日計振溝口義浩研修部長）

【資料代】1000円

【定員】先着40名

【申し込み期限】8月31日㈬

【申し込み先】東京計量士会＝FAX03－3434－6615、Eメールtokeisi-info@tokeikyo.or.jp

日本硝子計量器工業協同組合

6月▽9日㈮＝第1回水銀委員会。水銀の規制に関する現状報告。9月までに水銀温度計の生産数量などを集計し、水銀使用者の声を集める。理事会。5月開催の理事会議事録の確認。月次会計報告。総会会計報告。水銀委員会開催について他。▽13日㈪＝都中央会税務委員会。▽28日㈫＝都中央会役員・評議員合同会議。

7月▽8日㈮＝理事会。6月理事会議事録の確認。月次会計報告。7月常会について。水銀温度計アンケートについて。

条約において、(1)その密度浮ひょう等JIS分科会について。冷蔵庫用温度計発注について。幸楽会旅行について他。▽14日㈭＝都民計量のひろば実行委員会▽28日㈭＝第2回水銀委員会。組合員宛アンケートの結果報告。9月政府間交渉委員会アジア向け会合出席者決定。事前に8月経産省との打ち合わせを行う。

◇水銀条約について

水銀条約の政府間交渉は2010年に始まり、第3回は今年10月にナイロビで開催されます。

回収・保管／処分システム、(2)大気への排出削減、(3)代替選択肢のない用途や代替に時間を要する用途の特定、(4)業界における自主活動、(5)途上国へ技術移転可能性、(6)水銀の輸出制限措置、などが検討されており、組合員が製造するガラス製水銀温度計も対象となります。

ガラス製水銀温度計はマイナス56～650度までの広範囲で使用され、その代替性の普及も進まないと考えられています。また水銀は、ガラス製温度計の感温液として優れ、国際規格、日本工業規格、計量法で、ある

都計コン 第3回技術研修会

東京都計量器コンサルタント協会（都計コン）は、2011年第3回目の技術研修会を開催する。

今回は、注目を集めている放射線被害をどう捉えるか、また被害を最小限に抑えていくために要求される計量機器や、計量システムの新分野をどのように構築していくかといった課題に役立つ情報を提供する。

【日時】2011年9月15日㈭、13時～16時30分

【場所】東京都計量検定所B会議室

【定員】40名

【内容】(1)講演「放射能とその人体への影響」明治大学名誉教授藤井岩根氏(2)講演「計量における放射能測定」㈱田中衡機工業所

http://www.tokeikyo.or.jp/
okeikyo.or.jp

計量の明日を拓く
SANKO
株式会社 三光精衡所　〒125-0042東京都葛飾区金町2-1-1
TEL03-3607-2328　FAX03-3607-2348

11年度 夏期商品量目立入検査を実施

不適正事業所は減少

東京都は、食品などの内容量不足を防止するため、2011年6月9日から7月6日までの延べ20日間、都内のスーパーマーケット、一般小売店、食品製造所などへ食料品の量目立入検査を実施した。

今期の検査対象全233事業所のうち、量目不足の不適正な商品の割合が5%を超えた「不適正事業所」は5事業所。これは全体の2・1%となり、前年同期（6・0%）に比べ改善が見られた。

都民がよく利用するスーパーマーケットの不適正事業所率は2・8%と前年同期（7・5%）から減少し、長期的な減少傾向が見られる。

商品個々に着目すると、検査全商品1万1347点中、計量法に定める量目公差を超えて不足していた不適正商品は65点あり、不適正率は全体比0・6%。前年同期（1・0%）に比べ改善されており、不適正事業所率と同様に今期の改善傾向がある。

商品部門別の不適正率では、「野菜類」が1・1%、次いで「総菜類」が0・8%、「魚介類」0・5%、「食肉類」0・2%であった。

不適正の原因は、「風袋量の軽視または無視」によるものが66・2%と最も多く、次いで「自然減量」が26・2%、粗雑な計量など「その他の要因」が7・6%であった。

不適正事業者は、後日、改善状況の確認を行い、改善されていない場合には、改善勧告などの計量法に基づく措置をとる。

不適正商品が確認された事業者に対しては、その場で不適正商品全ての再計量と適正な計量管理への改善指導を行った。

世界を拓くヤマヨの巻尺
YAMAYO
ヤマヨ測定機株式会社

11年度下半期 はかり定期検査などの予定

2011年度下半期の予定は以下の通り。

◇ひょう量が250kg以下のはかり
▽台東区＝7月22日～9月29日▽練馬区＝7月26日～10月28日▽狛江市＝9月1日～9月7日▽港区＝9月9日～10月14日▽葛飾区＝10月3日～12月16日▽中央区＝10月18日～11月29日▽豊島区＝11月1日～12月22日▽千代田区＝12月1日～12年1月27日▽板橋区＝1月16日～3月14日▽品川区＝1月16日～3月12日▽江戸川区＝2月1日～3月16日

◇ひょう量が250kgを超え2t以下のはかりおよび都が指定した事業所
▽港区、中央区＝9月1日～10月31日▽豊島区、葛飾区、千代田区＝11月1日～12月21日▽品川区、江戸川区＝12年1月16日～2月29日▽板橋区＝3月1日～3月30日

◇ひょう量が2tを超えるはかり
▽目黒区、台東区、荒川区＝9月1日～9月30日▽足立区＝10月3日～12月7日▽大田区、品川区＝12月8日～12年2月29日▽葛飾区＝3月1日～3月30日

◇環境計量器の計量証明検査
▽振動レベル計＝9月5日～10月7日▽大気濃度計＝11月7日～12月2日▽ガラス電極式水素イオン濃度計指示部＝12年1月10日～2月3日

◇皮革面積計の定期検査及び計量証明検査
10月17日～10月27日

副所長就任挨拶
計量の重要性は不変
東京都計量検定所副所長　柳沢潔

2011年8月1日付で副所長に就任しました柳沢です。

7月までは、人事委員会事務局で、職員からの不服申し立てを受けたりする公平審査事務に携わっておりました。

このたび、歴史と伝統のある東京都計量検定所に勤務させていただくことになり、まだまだ勉強中ですが、職員の皆さんと力を合わせ、懸案事項の処理と、東京都の計量行政の推進に向けて、微力ながら頑張っていきたいと思っております。

就任してみて、計量行政の奥の深さと幅の広さに驚いていますが、計量の重要性は、少々オーバーかも知れませんが、未来永劫不変であると思っています。

一方で、私達が検査業務の委託など、避けて通れない変革に直面していることも認識しています。

いずれにしても、事業者、都民の皆様から信頼される計量制度の維持のためということを念頭に職務に取り組んで参りたいと思います。

御指導、御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

適管主任者講習会開催

㈳東京都計量協会計量管理研究部会は、東京都計量検定所と協力し、7月15日㈭、検定所会議室を会場に「適正計量管理主任者養成講習会（生産関係）」を開催した。受講者は会員、非会員合わせて37名。今回の講習内容は以下の通り。

▽9時30分～「計量法と適正計量管理事業所の制度について」検定所管理指導課小林指導係長▽11時30分～筆記試験（計量法・適管制度など）▽13時～「はかりの検査方法実習」＝使用はかりは6kg／1g、2g。1班6名で6班編成とし、テキストを参考に、各自がはかりの検査を行い観測紙に記入。各班から結果について簡単に報告した。▽15時～講演「我が社における計量管理」日東富士製粉㈱高徳芳忠計量士＝自動はかりを使用した計量検定所と協力し、7月15日㈭、検定所会議室を会場に「適正計量管理主任者養成講習会（生産関係）」を開催した。受講者は会員、非会員合わせて37名。今回の講習内容は以下の通り。

▽9時30分～「計量法と適正計量管理事業所の制度について」検定所管理指導課小林指導係長▽11時30分～筆記試験（計量法・適管制度など）▽13時～「はかりの検査方法実習」＝使用はかりは6kg／1g、2g。1班6名で6班編成とし、テキストを参考に、各自がはかりの検査を行い観測紙に記入。各班から結果について簡単に報告した。▽15時～講演「我が社における計量管理」日東富士製粉㈱高徳芳忠計量士＝自動はかりを使用した計量管理方法など▽16時～試験内容の評価、修了証書の授与＝受講者全員が合格し、島崎副所長から1人1人に修了書が手渡された。

計量管理研究部会は、2012年1月に「適正計量管理主任者養成講習会（流通関係）」の開催を予定している。

シリーズ にほんの計量、せかいの計量 (1)

長野計器技術顧問　切田篤

NMIJとは

今年の2月まで「とうきょうの計量」に連載されていた、倉橋正保さんによる「シリーズ標準物質」は読者の皆さんの高い評価を頂きました。今回からは、「にほんの計量」と題して、NMIJ、産業技術総合研究所、計量標準総合センター」という名称で呼ばれています。

以前は通商産業省工業技術院計量研究所が、日本の主な国家計量機関としての役割を担っていました。2001年に、省庁の再編があり、通商産業省が経済産業省として再編されるとともに、工業技術院に所属する15の研究所が統合・再編され、㈱産業技術総合研究所となりました。この統合に伴い、同じ工業技術院電子技術総合研究所にあった電気標準関連部門と、物質工学工業技術研究所にあった物質標準を担う部門を統合し、名実ともに日本の国家計量機関として、NMIJは新たな活動を始めたのです。

電子技術総合研究所の起源は1891年に設立された逓信省電務局電気試験所、物質工学工業技術研究所は1890年に設立された農商務省工業試験所、計量研究所は1903年の中央度量衡器検定所にそれぞれ端を発する研究所であり、長い歴史を持っています。

計量標準総合センターには、研究や計量のハード部分を行う計測標準研究部門と計量に関わるソフト全般を支える計量標準管理センターがあります。詳しい役割・機能分担はNMIJのホームページをご参照ください。

NMIJはその設立に一機関としてNMIJがしっかりとした活動基盤を確立したこと、また、経済産業省をはじめ、日本の計量を支える各機関との協力体制が強化されてきたことが、大きな成果としてあげられます。NMIJは、このように国内の標準整備に力を注ぐとともに、アジア太平洋地域、さらには世界の計量標準整備にも大きな役割を果たしています。

シリーズ第2回では、世界の中での日本の計量にふれてみたいと思います。

今日の計量計測情報ニュース
http://keisoku-news.jp/
日本計量新報社

お知らせとお願い
この「特集・とうきょうの計量」は偶月（偶数月）に発行し、東京都計量協会の会報に代わるものとして全会員に配布しております。会員皆様のご投稿・ご意見・ご質問のほか、各部会等の動きなど是非お寄せ下さるよう、ご支援をお願いいたします。
【編集委員（50音順）】
▽大岡紀美子▽金子啓三▽切田篤▽高原隆▽高松宏之▽森川正彦▽山本研一▽横田賢次郎
㈳東京都計量協会 ☎03-4334-6591